

☆公害による健康被害を許すな!

☆自然環境・生活環境の破壊を許すな!

モズ
画:橋本正弘



大阪から公害をなくす会 ニュース

大阪から公害をなくす会

大阪市此花区西九条1丁目4-9
高田ビル 〒554-0012
TEL 06-6463-8003
FAX 06-6463-8202
oskougai@coast.ocn.ne.jp
発行責任者 芹沢 芳郎
年間購読料一部2,000円(送料共)
郵便振替 00910-7-300387



連続学習会2008 第1講座

面白かったね! 勉強になったね!

みんなで深めた

『大阪のヒートアイランド問題』

連続講座2008の始まりは「大阪のヒートアイランド問題」から始まりました。

講師の府職労・山本勝彦さんは、最新のデータに基づき大阪の暑さの中味について詳しく講義されました。講演要旨は以下。「今年は7月の気温が高く9月25日現在で熱帯夜(正式な気象用語ではないが25℃を下回ることはない日と言う)の数が42日とかなり暑い夏でした。日本の主要都市の中で最も高温で、

しかも暑くなり方が酷い。ヒートアイランド問題では東京都が熱心ですが、東京都より高温の大阪ではより高い行政対策が重要ですが、

ヒートアイランドは、産業や人口集積によって発生する「都市生活型環境汚染」です。一昔前の都市の環境問題は、騒音・大気・水・ごみなど局所的といえる汚染が問題でしたが、「ヒートアイランド」被害は、地域も貧富差もなくすべての住民に及びます。しかし、有効な対策を取ることで緩和されま

す。府の計画では、①人口排熱の低減(省エネ) ②土地建物の高放射化(被覆し熱吸収を避ける) ③風・緑・水による冷却作用(打ち水がこれですね)、芝生1㎡で一日に家庭用エアコン3時間分相当の熱蒸発、立木1本では一日200ℓの熱蒸発がありこれはエアコン12時間運転に相当するとか言われています。考えられている対策のかなり方式ですが、これが新たな問題



を起さないか危惧します。もうひとつの「高反射性建造物化」では外への跳ね返りで町はかえって暑くなるでしょう。大阪市内の北区には、1㎡あたりのエネルギー使用量が200Mw/m²と、降り注ぐ太陽エネルギー700Mw/m²の1/3という場所もあり、高エネルギー都市から全体のエネルギーを減らす低エネルギー対策が必要です。今年も局地豪雨(ゲリラ豪雨)がよく発生しました。ヒートアイランドと雲の発生がすすんでいます。大阪府の環境行政の

大学習会連続講座に参加して

大阪が、いかに気温の高い都市だということをあらためて知りました。

また、ヒートアイランドによって、暑さのため、被害を与え

問題は、①理念が喪失していること。と②関西州構想です。環境問題は地域差があり大きな規模で対応できるものではありません。ヒートアイランドやアスベストなど新たに噴出する環境問題に対応できる研究機関の充実こそ重要です。」

続いて、民主医療連合会から過去5年にわたって調査してきた「熱中症聞き取り調査結果」が発表された。熱中症患者の6割が部屋の中で発症している事実、患者の3割りが65歳以上のどの報告に胸が痛みました。

夏の間、高齢者の方がクーラーの操作の仕方がわからないとか、経済的理由で、クーラーがないなどで暑い思いをされているのです。

そんな中で、熱中症によって、孤独死もあるというのは、悲しい出来事です。

温暖化という環境の変化が人の命とかかわりがあり、対策が急がれることを感じました。

(バルコニー 三木照子)
(次ページ4段目につづく)